



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:56

大動脈遮断バルーンカテーテルの迅速導入を目指した
取り組み

渡邊香留, 山近真実, 平田哲

大動脈遮断バルーンカテーテルの迅速導入を目指した取り組み

旭川医科大学病院 手術部ナースステーション ○渡邊香留、山近真実
旭川医科大学病院 手術部 平田哲

【はじめに】

大動脈遮断バルーンカテーテル（Intra-Aortic Balloon Occlusion：以下IABO）は輸液や輸血療法に反応せず心停止が差し迫った出血性ショック時に、冠血流、脳血流を維持するために、緊急避難的に下行大動脈に挿入し大動脈を遮断する方法である。当院でもIABOや手術器材の準備に係る時間短縮が必要と考え体制整備を行ったので、報告する。

【目的】

IABOに関する体制整備を行い、手術室看護師がIABOを迅速に準備できる。

【方法と結果】

1. 破裂性腹部大動脈瘤に対するプロトコルを作成し周知した。
2. 血管外科医師と協働し緊急IABOカートを作成した。
3. 緊急IABOカートを使用した事例の使用状況を評価した。

【考察】

IABOを必要とする患者は危機的状況であり、手術チームは迅速な対応が求められる。これまで収集が煩雑で時間を要した物品が緊急IABOカートに集約され、迅速な物品準備の標準化を図ることができた。課題はスタッフ個々のIABOに対する理解に差があり、病態や使用する物品の学習と根拠づけが必要と感じた。今後はチームで入室準備のシミュレーションや学習会を行い、緊急対応の質を高めていきたい。